

「社教連会報」78 の訂正について

平成 28 年 2 月 1 日発行の「社教連会報」78 号について、記載事項に一部誤りがありましたので、お詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

8 頁

○平成 28 年度社会教育研究大会一覧(予定)

東北地区（福島大会）

誤 福島県（白河市） → 正 福島県（福島市）

一般社団法人全国社会教育委員連合

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道ビル7階 TEL 03-6380-8540

社会教育委員の皆さまへの期待

文部科学省大臣官房審議官(生涯学習政策局担当)

徳田 正一

第57回全国社会教育研究大会大分大会に、文部科学省を代表して出席させていただきました。当初の予定を大幅に超える約1,800名の社会教育関係者が参加され、地域活動を担う人材の育成、地域コミュニティの活性化など、喫緊の重要課題について大変熱心な議論が行われる様子を拝見し、感銘を受けました。また、田滑な大会運営をサポートしていただいた関係各位の御尽力に対し、改めて感謝申し上げます。

だが、「国づくりは、人づくり」の言葉どおり、農林水産業も地域づくりも、まさに「人」が肝要だと考えます。

急速に進展する少子高齢化を乗り越え、一人一人が豊かな人生を送るとともに、我が国が成長発展していくためには、何より、教育の充実が必要です。経済成長の源泉は「人」であり、教育は「未来への先行投資」です。

生涯学習・社会教育が、その中心となる時代が到来しているのではないのでしょうか。

私は農政に長く携わってまいりました。教育再生実行会議では、平成27年3

月に、第6次提言として、社会に出た後も誰もが学び続け、夢と志のために挑戦できる社会や、多様な人材が担い手となる「全員参加型社会」を実現すること、教育がエンジンとなって「地方創生」を目指すことなどをまとめています。

また、この提言を受けて、中央教育審議会において、12月には、今後のコミュニティ・スクールの在り方や、地域の教育力の向上充実と学校との協働体制の在り方等について、答申が出されました。「地域とともにある学校」に転換するとともに、「学校を核として地域づくり」を推進し、子供も大人も育ち合う教育体制を構築することが求められております。その役割と責任は、学校教育とともに、社会教育が担っていることは言うまでもありません。

社会教育委員に対しても、地域学校協働活動の推進について助言や協力を期待する旨を言及しております。皆さまにもぜひ御一読いただきたいと思っております。

社会教育委員の皆さまには、人と人をつなぎ、ネットワークを構築し、明日の日本を創る「人」を育てる活動の中核となっていただくことを期待しております。



徳田 正一
(とくだ まさかず)

プロフィール

山口県山口市生まれ
農林水産省入省後、大臣秘書官事務取扱、北海道企画振興部次長、畜産企画課長、水産庁企画課長、大臣官房地方課長、キリン(株)での官民交流を経て、平成26年8月から現職。

第57回全国社会教育研究大会(大分大会)を終えて

全国各地から社会教育委員、社会教育関係者など1,800名もの多くの関係者をお迎えし、第57回全国社会教育研究大会大分大会を開催しました。

また、大会の開催にあたり文部科学省大橋謙策会長をはじめとする全国社会教育委員連合の役員の方々、多くの企業・団体の方々からご支援いただきました。大会の円滑な運営に多大なご協力を賜りましたことに対して厚く御礼申し上げます。併せて、九州ブロック社会教育研究大会、大分県公民館研究大会も兼ねて開催され、九州地区の関係者の皆様にも、大会運営にご協力いただき感謝申し上げます。

さて、今回の大会期間中は例年になく心地よい初秋風が吹く快晴の日和に恵まれ、台風の影響を心配することなく、皆様に安心して大会に参加していただくことができました。また、大分では大分市中心部の再開発事業がほぼ終了し、大分県美術館や大分駅など生まれ変わった大分の街並みを散策することもできたのではないのでしょうか。主会場となりました大分市のホルト

ホール大分は生涯学習や地域福祉の拠点となる複合施設として平成25年度に開館し住民の活動拠点となっています。

ここから、本大会スローガンに掲げた「大分発『生かそう！みんなの学び 創ろう！地域を拓く社会教育』」を発信できたことは本県にとっても意義深い大会となりました。

本大会では「互いに助け合い支え合う『地域力』を高める社会教育の再生」を研究主題に定め、学びをとおして様々な生活課題や地域課題を解決する取り組みについて意見交換、協議を重ねてきました。

記念講演では国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長、大分県教育委員であります林 浩昭氏に「国東半島宇佐地域から世界へ羽ばたく」と題して、豊かな農林産物と生態系をもたらすクヌギ林とため池による循環型農林業を作り上げる中で、そこに住む住民の知恵とその文化についてご紹介いただきました。社会教育を通じたまちづくりに取り組んでいる私たちにとって多くの示唆をいただいたものであると

感謝しております。

分科会は、6分科会に分かれ大分県で提唱しています「協育」ネットワークをキーワードに学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力による取り組みについて全国から推薦いただいたレポートによる事例発表の後、研究討議を行いました。各分科会とも意欲的な発表と参加者の真摯な意見、さらには社会教育のオピニオンリーダーである助言者の皆様からの今後の社会教育の方向性を見据えた助言により深まった討議ができたものと感じております。

シンポジウムでは、「互いに助け合い支え合う『地域力』を高める社会教育の再生」をテーマに臼杵市の中野五郎市長をはじめ4名の登壇者による討議とともに、参加者からのご質問、ご意見を頂戴しながら司会を進行させていただきました。住民が主体的に関わる地域づくりはどうかあるべきなのか社会教育の可能性を模索する良い機会になったのではないかと思います。

また、大会の冒頭には学習成果発表として庄内子供神楽愛好会による「貴見城(きけんじょう)」を演じていただきました。由布市庄内町の小中学生による日頃の練習の成果を十分に出し切れた立派な舞台に魅了されたのではないのでしょうか。情報交換会では全国から多くの方々にご参加いただきましたまして社会教育を共に歩む仲間として新たな絆づくりの場になったよう

です。

さて、来年は千葉県で第58回全国社会教育研究大会が開催されます。社会教育のあり方が問われる今だからこそ関係者が知恵を出し合い、共に行動する体制づくりが求められているのではないのでしょうか。千葉大会では参加者が互いに語り合う場を提供いただくこととなっているようであります。大分の成果とこれからの取り組みを是非来年は千葉で意見交換しましょう。最後に大分大会にご協力いただきました皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。誠にありがとうございました。

第57回全国社会教育研究大会大分大会
実行委員会委員長 山崎 清男



**第58回全国社会教育研究大会千葉大会
第47回関東甲信越静社会教育研究大会 ご案内**

～千葉で語り合おう！ 未来を築く 人づくり・まちづくり～

今日の日本の社会は、グローバル化や高度情報化が急速に進展する一方で、少子高齢化、地域コミュニティの崩壊などが危惧されております。社会環境は大きく変化し、さまざまな事柄が深刻な社会問題となっており、また、身近な学校、家庭、地域も、そのありようが大きく変化してきています。

今、市民一人一人が、その生涯を通じて自ら学び続け、必要とするさまざまな力を養い、その成果を活かすことが可能な生涯学習社会が求められています。また、諸問題の解決には、社会全体で取り組んでいくことが必要であり、社会教育の果たす役割は非常に大きいといえます。特に、東日本大震災以降、地域の絆の重要性が見直されており、学習を通じて人づくり・まちづくりをめざす社会教育への期待は、一層高まりつつあります。

東日本大震災では千葉県も津波や液状化等による被害を受けた県であり、今まさに復興途上にあります。これらの経験を活かしつつも、社会教育として復興の役割を見つけながら進んでいるところです。

このような時代だからこそ、私たち社会教育委員は、自己の役割について再認識したうえで、身近な人と人との絆を大切に、人づくり・まちづくりに向けて具体的に行動を起こさなければならないと考えます。

千葉大会では、「学び合い、支え合い、高め合う社会教育の創造」の研究主題のもと、全国の社会教育関係者が一堂に会し、活力あるコミュニティづくりをめざして研究協議を行うことを趣旨といたします。

特に今回の分科会は、各地域での実践等について参加者全員が意見・情報を交換し、大いに交流を深める機会としたいと考えております。

千葉県は、温暖な気候に恵まれ、さまざまな美しい花々が一年をとおして咲き香り、四方を海と川に囲まれた水と大地に恵まれた自然豊かな風土となっています。当日は「おもてなしの心」をもって皆様を大切にお迎えしてまいりたいと考えております。

千葉県社会教育委員連絡協議会会長
平成28年度全国社会教育研究大会千葉大会実行委員会委員長 中山 清志

◇大会の概要

1. 期 日 平成28年10月26日(水)～28日(金)
2. 会 場 千葉県文化会館(千葉市中央区市場町11番2号)他
3. 大会日程

第1日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00 ₃₀	17:00	18:00	
10/26 (水)							全国社教連 理事会		全国社教連 事務局会議		
第2日	9:00	10:00	11:00 ₃₀	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00 _{20 50}	18:00 ₃₀	
10/27 (木)	全国社教連総会 受付		シフト コンラ	開会 行事	記念講演	シンポジウム	閉会 行事	分科会 打合せ	情報交換会		
第3日	9:00 ₃₀	10:00	11:00	12:00							
10/28 (金)	受付	分科会研修会 【ワークショップ型】									

4. 分科会

分科会名	テーマ	内容
第1分科会	学校教育支援の推進	学校教育を共に支える地域人材の育成
第2分科会	家庭教育支援の充実	家庭の教育力向上を図る支援のあり方
第3分科会	地域の教育力の向上	子どもをとりまく活気ある大人のネットワークづくり
第4分科会	社会教育委員の役割	人づくり・まちづくりを進める社会教育委員の役割(入門編)
第5分科会	災害に強い地域づくり	防災・減災、被災からの復興をめざす中での社会教育委員の役割

5. 大会参加費 5,000円/人

※内容は変更になることもありますので最新情報をホームページによりご確認ください。

平成27年度
地区別社会教育
研究大会

北海道地区

地域活性化と社会教育の可能性

～今だからこそ地域の底力を！～

新たな視点から街に活力を！

第55回北海道社会教育研究大会（日高大会）は、10月22日、23日の両日浦河町で392名の参加を得て開催されました。

1日目は開会式・表彰式に続き、基調講演では「未来の大人たちに私たちができること」と題して、テレ



ビドドラマ「高校生レストラン」で話題を呼んだ、まちの宝創造アドバイザー岸川政之氏に講演をいただきました。午後からは、家庭教育の充実や地域づくりなど6つの分科会に分かれ、それぞれの提言と討議の視点に基づき、小グループによる活発な意見交流を行い、今日的な社会教育の在り方を探ることができました。

2日目は、全体会のパネルディスカッションでは3名のパネリストによる地域活性化に向けた取組の紹介を交えた討議の後、記念講演の講師に元ソフトボール日本代表監督でシドニー、アテネの両五輪で日本代表を勝利へ導いた宇津木妙子氏を迎え、「個を生かしたチームづくり」と題した講演をいただきました。

全日程を通し、地域の活性化に向け社会教育委員として今なすべきことを考えることができ、有意義な大会となりました。

北海道社会教育委員連絡協議会

会長 大島 峰夫

東北地区

地域の未来像を描きだす社会教育のあり方

～人・地域・未来をつなぐ社会教育～
平成27年度東北地区社会教育研究



動」、第2分科会では「今日的な社会の課題に対応する社会教育活動」、第3分科会では「公民館を拠点として地域と行政が連携して進める社会教育活動」、第4分科会では「今日の変化に対応した公民館活動」をそれぞれテーマとし、東北各地からの先駆的な報告がなされ、活発な議論が交わされました。

交通の便に恵まれてはいなかったものの、627人もの参加があり、盛会裏に終了しました。

山形県社会教育連絡協議会

会長 安藤 耕己

関東甲信越静地区

たくましく生きる力をはぐくむ社会教育のあり方

～温もりのある地域社会をめざして～

第46回関東甲信越静社会教育研究大会（群馬大会）は、11月5日、6日に前橋市で、700名を超える参加者を得て盛大に開催されました。

1日目は、北野建設スキー部ゼネラルマネージャー荻原健司氏の記念講演から始まりました。人づくり、地域づくりに通じる講演は、参加者にとって示唆のある内容となりました。

また、パネルディスカッションで



は、関係機関との連携を踏まえながら、今後の社会教育委員の可能性等について、社会教育、学校教育、NPOの立場から意見交換がなされ、2日目の分科会につながる議論が展開されました。

2日目は、5分科会に分かれ、実践事例をもとに、熱心な協議が行われ、参加者にとって実りある分科会となりました(写真)。

参加した皆様が、本大会を通じて学んだことを、各地域で実践していただくことを心から願っております。

群馬県社会教育委員連絡協議会

会長 原口 光明

東海北陸地区

知を愛し 地域をつなぎ

未来へつなぐ 社会教育の推進

10月22日、23日の両日、愛知県刈谷市において第46回東海北陸社会教育研究大会(愛知大会)が約1,000名の参加者を得て、盛大に開催されました。

初日は、アトラクション、開会行事、記念講演が行われました。アトラクションでは、開催担当市である知立市宝町のみなさんによる山車文楽「二人三番叟」が披露され開会に華を添えていただきました。

その後の記念講演では、元文部科



学省官僚で現在、京都造形芸術大学教授の寺脇研氏に「地方創生に果たす社会教育の役割」というテーマで、超高齢化、過疎化という様々な地域課題を解決するために社会教育が1層その役割を果たすべきなど大変貴重なお話を伺うことができました。

2日目は、5つの分科会に分かれ各県からの話題提供に基づき、活発な協議や意見交換が行われました。

多くの関係者の方々にご参加いただき、実り多き大会となりました。ことに厚く御礼申し上げます。参加された東海北陸各県の皆様が、今大会で学ばれたことをもとに、各地区でさらなる活躍をされることを心より願っております。

東海北陸社会教育委員協議会連合会

会長 山内 晴雄

近畿地区

学び、つながり、切り拓く社会教育！

希望につながる

社会教育をめざして

平成27年度近畿地区社会教育研究大会(奈良大会)は、9月4日に奈良市で1,000名を超える参加者を得て、盛大に開催されました。

午前中の開会行事に続いて記念講演では「いにしえより受け継ぐ日本の心」と題して、春日大社宮司・奈



良県教育委員の花山院弘匡氏に、古いものと新しいものを融合させて歴史を紡いできた日本人の精神性についてご講演いただきました。

午後からは5分科会(地域づくり、人権教育、学校・家庭・地域の協働、社会教育委員の役割)が開催され、各府県の実践発表に基づき活発な意見交換及び協議が行われました。

本大会を通じて学ばれたことを、今後の社会教育活動の実践に生かしていただくことを願っています。

多くの方々にご参加、ご協力いただき、本大会が充実した有意義な大会になりましたことに、心より感謝

申し上げます。

奈良県社会教育委員連絡協議会

会長 飯田 喜代視

中国・四国地区

社会教育維新！ 未来へつながらる地域の絆づくり

学校・家庭・地域の温かい絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けて

第38回中国・四国地区社会教育研究大会（山口大会）は、11月19日、20日の両日、山口県山口市の山口県総合保健会館を主会場に、約500名の参加を得て開催されました。

1日目は、アトラクション（山口 鷺流狂言）、開会行事の後、萩博物館主任学芸員の道迫真吾氏に「松下村塾と維新の志士たち」松陰の盟友・楫取素彦」と題し、吉田松陰と楫取素彦の親交、また、松陰の妹の文にまつわる逸話について講演していただきました。

その後のパネルディスカッションでは、大学の研究者、現場の実践者、それぞれの立場の方から示唆に富む貴重な事例発表が行われ、討議が行われました。

2日目は、2会場に分かれ分科会を実施しました。分科会ではグルー

プ別協議を行い、県という垣根を越えて参加者同士が直接語り合うことで、講義型とは違う、それぞれの思いや悩み、活動内容等を共有することができました。

参加された社会教育委員等の皆様方が、今大会で学ばれたことをもとに、それぞれの地域においてさらなる活躍をされることを心から願っております。

中国・四国地区社会教育委員連絡協議会

会長 相原 次男



北から南から

考え活動する

社会教育委員を……

千葉県社会教育委員連絡協議会会長
千葉県茂原市社会教育委員長

中山 清志



早いもので、社会教育に携わるようになり14年になる。我が国は、戦後70年が過ぎ少子高齢化の進行する中で、子どもから高齢者までさまざまな課題が山積している。課題解決には、社会教育に携わる者の役割が今まで以上に重要になっている。以下は、当市の活動の一端である。

1. 心豊かでたくましく自立する
青少年の育成啓発活動の促進を

めざす「青少年育成茂原市民会議」は、「地域の子どもは地域で育てる」「おとなが変われば子どもも変わる」をモットーに活動している。中学生の「少年の主張大会」は26回を数え、おとなも子どもも真剣に耳を傾けている。各小学校区青少年育成会議は、それぞれの特色を生かした活動を着実に進めている。いずれも青少年育成のための市民意識の高揚、非行防止、青少年の健全育成の活動である。

2. 地域住民の参加・協力による
地域教育力の活性化につながる「放課後子どもプラン」《放課後子ども教室》《放課後児童クラブ》の活動は、平成19年の運営委員会の設置から始まる。《放課後子ども教室》は、夏休み期間中4校で実施されている。参加の子どもたちや父兄の評価は大変高い。ボランティアの高校生は年々増加傾向にある。コーディネーターは努力が必要である。

父兄からは、夏休み期間以外での実施を望む声が多い。運営委員会は、放課後児童クラブと綿密な連携を図りながら検討を

進めることになる。

3. 市社会教育施設に関する提言
(市立公民館の利用者の拡大)に
ついて、社会教育委員会議が現
在進行中である。公民館職員削
減、指定管理者導入など大きな
岐路に立たされている公民館。
私たちは、公民館の現状と課題
を把握するために調査研究を
し、公民館活動の充実、公民館
職員の資質の向上等を検討し、
公民館利用者の拡大についての
方策をまとめたいと考えてい
る。

地域力を高めるために、何をすべ
きかを考え活動する社会教育委員で
ありたいと考える。努力。努力。

若者たちの実践と想像力

兵庫県社会教育委員協議会

会長 上羽 慶市

実践活動と研修。社会教育委員に
とって、この二つは車の両輪である。
兵庫県では、毎年、夏と秋に研修会
を開いている。夏は社会教育、生涯
学習政策の分野からの当面の課題
を、秋は青少年の自立支援や家庭教
育支援など現代的課題に対する実践
事例について、専門家、実践者など

を招いて講義してもらおう。同時に、
各地域での取り組みを発表し、参加
者とディスカッションする分科会を
もっている。

11月に行った社会教育研究大会で
は、初めて講師を呼ばずに東日本大
震災の被災地支援と防災・減災普及
啓発活動を続ける学生たちを招い
て、報告と社会教育委員との意見交
換を行った。

社会教育を取り巻く課題のひとつ
に若者の参加が少ないことがある。
しかし大震災の被災地支援活動に見
られるように社会貢献に高い参加意
欲を持った若者がいる。

学生たちはNPO法人ワカモノヂ
クラブプロジェクトをつくり、さまざ
まな活動を続けている。たとえば、
被災者が制作したミサンガや携帯ス
トラップを兵庫県内のイベントで販



売して収益を送金したり、被災地の
現状をパネル展示し、支援の必要性
を訴える。兵庫県内に在住する避難
家庭の子供たちに、遊びを通して交
流を深める活動。地域の子供たちと
防災マップを作ったり、一泊二日の
防災キャンプを行ったり活動は多岐
にわたる。

「継続する」ことの大切さ。自分
の問題として認識する。エネルギー
が必要。みんなが集まるのが大変
……。学生らのことばの一つ一つに、
ものごとと真正面から向き合う姿勢
が見られる。「地域」のワクを超えて、
若者の活動が触媒になって進んでい
く新しい形、ニーズと貢献できる人
との連携、学生たちを送り出す仕組
みを「公」や「大学」でどう作るのか、
フロアーとの議論は続いた。

阪神・淡路大震災から21年。災害
はその地域に長く深い影響を与え続
ける。震災をほとんど経験していな
い若者たちが東北に向かう。被災者
の気持ちに近づこうとする努力、想
像力。そのことの大切さを改めてか
みしめた。

—改訂版—

社会教育委員のためのQ&A

社会教育委員 必読の一冊

新版

*法改正に対応しています



A5判 定価1,296円(税込)
企画・編集/
(一社)全国社会教育委員連合
発行/(株)美巧社

主な内容

社会教育とは、社会教育と生涯学習
社会教育委員委嘱の範囲
諮問に応じるとは
教育委員会への助言とは
必要な研究調査とは
社会教育委員制度の活性化

社会教育と社会教育行政
实际生活に即するとは
環境を醸成するとは
社会教育を行う者とは
社会教育の振興と地方公共団体の任務
公の支配に属しないとは
教育委員会と社会教育関係団体の関係

「社教連」だより

平成27年度

第3回理事会・総会について

平成27年度第3回理事会・総会を、3月4日(金)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①平成28年度事業計画(案)・収支予算(案)②第58回全国大会(千葉大会)③第59回全国大会(北海道大会)④第60回全国大会(青森大会)⑤その他を予定しております。

平成28年度

第1回理事会・総会について

平成28年度第1回理事会・総会を、5月17日(火)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①平成27年度事業報告・決算報告②第58回全国大会(千葉大会)③第59回全国大会(北海道大会)④第60回全国大会(青森大会)⑤その他を予定しております。ご多用とは存じますが、ご予定くださいますようお願いいたします。

社会教育手帳 2015-2016



会議の備忘録等に最適です
新書版 定価 1,296円(税込)

主な内容

1. 備忘録と生活情報
2. 社会教育資料
3. 全国社会教育委員連合の概要

ご注文は(一社)全国社会教育委員連合へ直接、またはホームページからできます

平成28年度社会教育研究大会一覧(予定)

全国大会	(千葉大会)	10月26日(水)~28日(金)	千葉県千葉市
北海道地区	(上川大会)	10月13日(木)~14日(金)	上川管内(富良野市)
東北地区	(福島大会)	10月20日(木)~21日(金)	福島県(白河市)
関東甲信越静岡地区			→ 全国大会と合同開催(千葉県)
東海北陸地区	(福井大会)	10月13日(木)~14日(金)	福井県(敦賀市)
近畿地区	(滋賀大会)	9月9日(金)	滋賀県(大津市)
中国四国地区	(香川大会)	11月17日(木)~18日(金)	香川県(高松市)
九州地区	(福岡大会)	11月10日(木)~11日(金)	福岡県(福岡市)
指定都市		5月27日(金)	神奈川県(相模原市)

社教情報 No.74



社会教育の明日を拓く 社教情報 No.74

特集テーマ つながる社会教育委員 ~社教連のこれからを考える~

- <巻頭言> 「人間の安全保障」と「限界集落」に挑む社会教育委員の連帯
- <実践で語る戦後の社会教育史> 山崎 信子氏(福島県)
- <答申・提言> 前橋市社会教育委員会議の提言
- <社会教育委員Q&A> 社会教育行政の役割や任務について
- <解説> 「新」教育委員会制度
- <社会教育委員の活動> 長野県東御市、島根県松江市、宮城県石巻市
- <社会教育委員リレートーク> 大分県 → 長崎県

- 大橋 謙策
- 取材 上條 秀元
- 解説 梶野 光信
- 解説 神部 純一
- 解説 山崎 清男

編集・発行 (一社)全国社会教育委員連合
TEL 03(6380)8540 FAX 03(6380)8541

生涯学習支援実践講座

文部科学省認定・通信教育

生涯学習コーディネーターを養成

「生涯学習コーディネーター資格」が取得できます

いま、生涯学習領域で最も必要とされている生涯学習コーディネーター。生涯学習コーディネーター養成のための本格的研修講座。コーディネートの知識・技術が4か月間の通信教育で習得できます。

案内書 無料進呈!
詳しい案内書をご希望の方は、ハガキ・電話・FAX・メールでご請求ください。

一般財団法人 社会通信教育協会

「生涯学習コーディネーター研修」事務局 〒114-0015 東京都北区中里1-15-8

TEL.03-5815-8432 FAX.03-5815-8433 e-mail sakai@tsushinkyoyoku.or.jp

講座内容

第I単元(テキストI)

コーディネートの理解と技術

第II単元(テキストII)

地域学習情報の活用と技術

第III単元(テキストIII)

コミュニケーションの仕方の理解

第IV単元(テキストIV)

事業の設計とマネジメントにおけるコーディネーター